

野口 眞所員 研究業績（野口所員が専修大学に提出された 2002 年 5 月までのもの）

論文（書）タイトル	所収雑誌名(書名)	発行年月 (西暦)
「商品・貨幣形態による需給評価機構の展開」	『経済学研究』(21号)	1978.10
J. ハリディー「朝鮮再統一の障碍を直視して」	季刊『クライシス』(2号) 社会評論社 (翻訳)	1980.1
「商品・貨幣形態と物神性」	『経済評論』(1月号)	1980.1
J. ハバーマス「現代の危機と新保守主義」	『経済評論』 日本評論社(翻訳)	1980.4
「初期マルクス研究の展望」	『経済評論』(4月号)	1980.4
『経済理論 近代経済学とマルクス経済学』	学文社	1982.7
「支配労働価値説の論理構造 マスサス価値尺度論の解明」	『論叢』(31号)	1983.3
「貨幣の価値尺度機能と価格標準 金本位制の原理的把握のために」	『論叢』(32号)	1983.9
「古典派資本理論の一側面(1) 固定・流動資本分析をめぐるリカードとその批判者」	『論叢』(33号)	1984.3
「商品価値とフェティシズム」	『経済評論』(10月号)	1984.10
「比較生産費と国際価値 国際貿易分析の理論的枠組をもとめて」	『経済学部紀要』(1号)	1984.12
「異種労働の還元問題をめぐって 欧米での最近の研究を手がかりに」	『経済学部紀要』(2号)	1985.3
「『不均衡動学の行方』岩井克人『ヴェニスの人々の資本論』	日本評論社『経済評論』(5月号) (書評)	1985.5
「古典派資本理論の一側面(2) 固定・流動資本分析をめぐるリカードとその批判者(トレンズ)」	『経済学部紀要』(4号)	1986.3
「ミハウ・カレツキにおける現代資本主義分析の方法と理論(1)」	『経済学部紀要』(7号)	1987.7
「ミハウ・カレツキにおける現代資本主義分析の方法と理論(2)」	『経済学部紀要』(8号)	1988.3
「小幡道昭著『価値論の展開』」	東京大学『経済学論集』54巻3号(書評)	1988.10
『経済学・入門』	別冊 宝島	1988.10
B. ローソン「サッチャー革命の成功と限界」	『エコノミスト』 毎日新聞社(翻訳)	1988.11
「カレツキアン現代資本主義分析の方法と理論」	『私学研修』(114号)	1989.7
『現代資本主義と有効需要の理論 投資・利潤・賃金の動態』	社会評論社	1990.1
「ケンブリッジ理論の『乗り越え』はいかにして可能か」	『武蔵大学論集』(37巻6号)	1990.3
「地域開発と中小企業の役割 大規模経済体制の変容を見据えて」	『地域研究』(1号)	1990.3
「経済の政治化と脱政治化」	『経済セミナー』(12月号)	1990.12
「ME革命と資本主義の行方 技術と労働の変貌を中心として」	科研費重点領域研究「情報化と人間」第4群2班研究成果報告書	1992.3
「成長と危機の理論として活かす道は」山田鋭夫著『レギュレーション・アプローチ』	いいだもも・山田鋭夫編『アフター・フォーディズムと日本』 御茶の水書房(書評)	1992.7

論文(書)タイトル	所収雑誌名(書名)	発行年月 (西暦)
「景気の迷走をどう読むか」	『月刊フォーラム』社会評論社	1992.9
「経済学(1992年回顧)」	『週刊読書人』(12月28日)	1992.12
「情報社会とマクロ経済の変動」	『経済評論』日本評論社	1993.4
「激変のアジアは何処へ NIES、中国、日本資本 」	『月刊フォーラム』(37号)	1993.8
「経済学(1993年回顧)」	『週刊読書人』(12月24日)	1993.12
「情報通信技術の革新と途上国開発」	科研費重点領域研究 第4群第2班 1993年度報告書	1994.3
「市場経済化する社会主義・中国」	『月刊フォーラム』社会評論社	1994.3
「長期不況下の資本主義」	『経済セミナー』(5月号)	1994.5
B. ローソン『構造変化と資本主義経済の調整』	学文社(翻訳)	1994.6
「経済学(1994年回顧)」	『週刊読書人』(12月24日)	1994.12
「情報化の経済動学 生産・分配・蓄積の軌道変 化」	科研費重点領域研究「情報化と人間」研 究成果報告書 第4部	1995.3
「構造主義理論の展開とマルクス経済学」	『経済と社会』(3号)	1995.5
「森田桐郎編著『世界経済論』」	『経済セミナー』日本評論社(書評)	1995.9
「経済学(1995年回顧)」	『週刊読書人』(12月22日)	1995.12
「構造主義理論と現代資本主義 その段階理論へ の再構成をめぐる」	『経済理論学会年報(第43回大会)』青 木書店	1996.1
「東南アジア発展の要因と可能性」	『状況と主体』(242号)	1996.2
『経済学史』(第2章、4章担当)	有斐閣	1996.4
『情報革命と市場経済システム』(第3章担当)	富士通経営研修所	1996.5
『マルクスの逆襲 政治経済学の復活』(序章、第 2章担当)	日本評論社	1996.6
「経済学(1996年回顧)」	『週刊読書人』(12月27日)	1996.12
「開発理論の現在 その源流から考える」	『月刊フォーラム』(79号)	1997.2
「資本のグローバル競争と日本型資本主義」	『ネアンデルタール21』(創刊号)	1997.7
「経済学(1997年回顧)」	『週刊読書人』	1997.12
“Global Competition and the Japanese Model of Capitalism.”	Journal of the Faculty of International Studies. vol. 8 (文教大学国際学部 紀要)	1998.3
S. ボウルズ/H. ギンタス「資本主義経済におけ る富と力 対抗的交換の視点から」	『経済学セミナー』日本評論社(翻訳)	1998.5
森田桐郎著『世界経済論の構図』	『アジア経済』第39巻7号(書評)	1998.7
「電子マネーと現代資本主義」	『情況』1998年8・9月合併号(9巻 8号)	1998.8
「資本主義進化の中間理論 日本型資本主義の 『盛衰』をどう読み解くか」	『経済セミナー』(日本評論社)1998年 9月号、通巻524号	1998.9
「ソ連型社会主義の興立と20世紀の資本主義」	文教大学『湘南フォーラム』第3号湘南 総合研究所紀要	1998.10
D. ハーヴェイ「階級権力の地理学」	『思想』(岩波書店)第894号、12月号 (翻訳)	1998.12
経済学(1998年回顧)	『週刊読書人』(12月25日)	1998.12
「世紀末資本主義の危機とその将来を展望して」	『状況と主体』(矢沢書房)第278号	1999.1
「中国の裏通りと表通り」	『経友』(東京大学経友会)第143号	1999.2

論文(書)タイトル	所収雑誌名(書名)	発行年月 (西暦)
『進化する資本主義』(共著編)序章、2章、5章 担当	日本評論社	1999.2
「日中間の経済学交流へのかけ橋に 昨秋の中共 中央党校訪問を終えて」	『状況と主体』(矢沢書房)第279号	1999.2
「世紀末大不況とマルクス経済学」	『フォーラム90s』(社会評論社)第96 号	1999.3
「書き手探しに困惑して」	『フォーラム90s』(社会評論社)第96 号	1999.3
「戦後世界システムの転換と中心・周辺関係の変 容」(伊藤誠編『現代資本主義のダイナミズム』 第2章)	御茶の水書房	1999.10
現代版経済学批判の活路はどこにあるのか 植村 博恭・磯谷明德・海老塚明著『社会経済システ ムの制度分析』を読んで	Regulation, Institution& Contemporary Economics (第16号) (書評)	1999.11
資本主義経済の原理と資本主義制度の進化(1) 経済学(1999年回顧)	専修大学『経済学論集』第43巻第1号	1999.11
アジア経済危機と現代資本主義のゆくえ(降旗節 雄・伊藤誠編「マルクス理論の再構築 宇野経 済学をどう活かすのか」第7章)	『週刊読書人』(12月24日)	1999.12
『経済思想史辞典』(担当項目:「資本過剰説」)	社会評論社	2000.3
「岩井克人著『二十一世紀の資本主義論』」	丸善	2000.6
「グローバル化する資本主義のジレンマ」	『週刊読書人』(6月23日)(書評)	2000.6
「現代資本主義をどう観るのか」(上)	『季刊アソシエ』第4号御茶の水書房	2000.10
「経済学(2000年回顧)」	『情況』12月号	2000.12
「現代資本主義をどう観るのか」(下)	『週刊読書人』(12月22日)	2000.12
「日本の経済システムの何が問われているのか」	『情況』1・2月号	2001.1
「アジア金融危機と制度間摩擦」	『グローバリゼーションと日本』(第10 章)専修大学出版局	2001.3
「IT革命が予示する21世紀の資本主義像」	『進化経済学論集』第5集	2001.3
北京大学との合同研究会での報告を終えて	(森岡孝二他編『21世紀の経済社会を 構想する』所収)桜井書店	2001.5
普州経済危機以后的日中経済協作関係展望 経済学(2001年回顧)	『専修大学社会科学研究所月報』(475 号)	2001.8
「市場経済の神話 <平等主義的>市場の可能性 問題の所在を探る」	北京大学『国際政治研究』(82号)	2001.11
金融脆弱性の理論から金融危機の病因学へ	『週間読書人』(12月28日)	2001.12
Y. Shionoya and K. Yagi (ed.) Competition, Trust And Cooperation	法政大学比較経済研究所、Working Paper . No. 95	2002.2
	専修大学『経済学論集』(36巻3号)	2002.3
	経済学史学会年報41号(書評)	2002.5



編集後記

当初シンポジウムを7月に開催するつもりで準備をすすめていたが、なかなか日程が折り合わず、9月末の開催となった。結果的にはそのほうがよかったのではないかと、今では思える。多くの方々がそうではなかったかと推察しているのであるが、7月中の開催では、野口さんが逝去された現実をなかなか受け入れられなかったのではないかとと思われるからである。

今回寄稿していただいた方々には当日パネラーとして報告していただいた。ご多忙のなか遠方からお越しいただいたり、また海外調査終了間もないうちにご報告いただき、あらためて感謝申し上げる次第である。各報告の後、たくさんの質疑がフロアーから寄せられた。それへの応答を含めて、本月報に記録すべきところ、それが実現できなかった。編集者として深くお詫びする次第である。

シンポジウム当日、野口さんのご尊父、奥様、ご令嬢、ご子息をはじめご家族の方々もお見えになっていた。また泊りがけでシンポジウムに参加された方も多く、野口ファンの多さを感じ入った。野口理論もそうだけれど、野口さん自身が魅力に満ちあふれていたからなァー、と。

(T.M.)

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 柴田弘捷

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
